

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関羽る方針）
普通科 （１） 自己肯定感と他者感覚を高め、自らの成長のために挑戦できる生徒を育成します。 （２） 健全な心身を育み、「考える力」「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「協働する力」を持つ生徒を育成します。 （３） 生涯にわたって主体的に学び続け、地域社会やグローバル社会に貢献できる生徒を育成します。	普通科 （１） 幅広い進路希望に対応した、多様な教科・科目を開講します。 （２） 国語、英語、数学を中心に習熟度別授業・少人数授業を実施します。 （３） 総合的な探究の時間「北辰」を通して地域との連携や協働を図り、自己探究力を高め、新しい時代に向けた思考力・表現力を伸ばします。 （４） 一人一人の進路希望を実現するために、２年次からの類型別学習を充実させます。 ①Ⅰ型（就職・専門学校進学希望者に対応） ビジネスに関する知識や技術の習得を目指し、職業人としての資質や能力を育成します。 ②Ⅱ型（四年制大学進学希望者に対応） 適性や志望に合わせて科目を選択し、大学進学に必要な高い学力の習得を図ります。 （５） 学校行事や部活動、ボランティア活動を通して、多様な価値観を尊重する態度を育てます。
生産食料科（農業科） （１） 自己肯定感と他者感覚を高め、自らの成長のために挑戦できる生徒を育成します。 （２） 健全な心身を育み、「考える力」「コミュニケーション力」「プレゼンテーション力」「協働する力」を持つ生徒を育成します。 （３） 生涯にわたって主体的に学び続け、農業後継者及び地域社会やグローバル社会に貢献できる生徒を育成します。	生産食料科（農業科） （１） 国語、英語、数学を中心に習熟度別授業・少人数授業を実施し、基礎学力の定着を図ります。 （２） 実習を通して勤労感や協働の意識を育て、他者をいたわる心を育てます。 （３） 課題研究や総合実習における地域との連携を一層深め、地域の教育資源等の積極的な活用を図り、探究的・発展的な学習を目指すとともに、成果を発信する力を育成します。 （４） 生徒一人一人の特性や興味関心を大切にした、自己実現及び進路実現を目指すために、２年次からの類型別学習を充実させます。 ①生産類型 農作物の栽培技術や農業機械の操作技術を習得させ、探究的に農作物の高品質化を図る実践力を養います。 ②食品類型 地域特産品を活用した商品開発を進め、特産品の発展に寄与するとともに、課題解決に向けて実践的に取り組む力を育成します。 （５） 学校行事や部活動、ボランティア活動を通して、多様な価値観を尊重する態度を育てます。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
ボ グ リ ラ シ デ ィ ュ エ ィ シ ョ ン ・	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる。 教職員アンケート A:肯定的意見が7割以上、B:肯定的意見が6割以上、C:肯定的意見が5割以上、D:肯定的意見が4割以上、E:肯定的意見が4割未満	C	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、55%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、33%が「どちらとも言えない」、10%が「あまり成長していない」「成長していない」という否定的な評価をしている。	・ 令和7年度「心の教育」推進校としての取組を継続し、さらに「心の力」の育成に努める。 ・ 探究学習について外部人材の活用や地域連携などを積極的に進めることにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促したい。

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	家庭学習の充実	平常日における家庭学習時間を1日平均120分以上確保させる。 学習時間平均 A:120分以上 B:100分以上 C:90分以上 D:80分以上 E:80分未満	E	・1学期 平常日 72分（76分） ・2学期 考査期間 103分（111分）	・教員間で共通理解のもと、教科で適切な課題を出し、しっかりとした評価と事後指導をすることで、より良い学習態度を育成する。 ・自主生活ノートに「学習時間」を記録させ、自己の振り返りを促す。 ・面接指導により、進路意識を向上させ、学習意欲を高めるとともに、効果的な学習方法について指導する。 ・公営塾の利用を呼びかけ、日々の学習習慣の定着を図る。
		各学期、担任との1回以上の個人面談を実施し、家庭学習の在り方や進路等についてのこまめな指導を行う。 面談実施回数 A:4回以上 B:3回 C:2回 D:1回 E:未実施	A	・毎学期初めに、面談週間を設けて、学習や進路・学校生活に関する指導や助言を行っている。また、模試前後にもアドバイスを言い、生徒の進路実現へ向けての意欲向上を図った。 ・1・2学期末には保護者を交えた三者面談も実施し家庭との共通理解を図っている。	・来年度も今年度と同様に、各学期初めの面談週間や学期末の保護者懇談会を設け、生徒の学習状況や生活状況を把握し、進路指導に努める。
	教科指導の充実	情報課と連携しICTを利用した授業法等の自己研修・相互研修に努め、一人一台端末を生かした、分かる授業・伸ばす授業の研究を行う。 教員自己評価 A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:80%未満	C	・各教科の特性を生かしながら端末を積極的に利用し、生徒や教員の技術も向上している。 ・生徒端末を用いた課題の提出確認の実施ができた。また、発表用スライドの作成をさせることができた。 ・生成AI活用について研修機会を設けることができた。	・引き続きICT機器を利用した、主体的な活動による、効果的な授業の在り方の研究をする。 ・ICT機器の活用実践例を紹介したり、研究授業への積極的な参加を呼び掛ける。 ・自動採点システム、生成AIの活用の推進を行う。
		落ち着いた雰囲気ですべての授業で臨むために、学年団と連携して朝読書を継続的に実施する。 教員自己評価 A:95%以上 B:90%以上 C:85%以上 D:80%以上 E:80%未満	C	今年度はJRの運行時刻の変更に伴う時程の変更により、「学びのすすめの時間」が週1回の実施となり、「朝読書」の時間の確保が難しくなっている。今後、実施方法等検討し、有意義な時間となるよう取り組んでいく。	来年度の校内時程が確定後、実施期間や「朝読書」の時間の確保について検討していく。引き続き、図書委員会を中心とした読書推進活動を充実させていく。
		図書・研修課と連携を取りながら、年4回以上の職員研修・年4時間以上の授業研修を行い自己研修の推進と指導力の充実を図る。 研修参加 A:4回以上 B:3回以上 C:2回以上 D:1回以上 E:未実施	A	「心の教育」をテーマとした学校訪問研修、図書・研修課、他各課担当の校内研修、校外研修など、全教職員が積極的に研修に参加し、全体的に指導力が向上した。	引き続き、研修機会の提供と研修の充実に努め、全体での指導力の向上を目指す。

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の定着	明るいあいさつ100％ 意識調査　A:95％以上　B:90％以上　C:85％以上　D:80％以上　E:80％未満	C	・制服変更に伴い、身だしなみの規定についても変更した。まだ見慣れないこともあり、評価としてはやや低下したのではないと思われる。 ・挨拶については教員、生徒会が年間を通して朝の登校時にあいさつ運動を行った。日頃の積み重ねが大切であると感じる。	・日頃から身だしなみやマナーについて、生徒自身の意識高揚を図るため全教職員があらゆる機会を通して指導にあたる。 ・あいさつ運動を継続的に行い、お互いが気持ちの良いあいさつができる環境づくりに努める。
		欠席3日以内80％以上 達成生徒　A:80％以上　B:70～79％　C:60～69％　D:50～59％　E:50％未満	E	・皆勤率（2学期末現在） 1年生 16.1%(29.8%) 2年生 37.8%(27.0%) 3年生 41.3%(38.3%) 全体　29.8%(32.0%)　　*()：昨年度	・規則正しい生活習慣を身に付けさせ、家庭との連絡を密にし、生徒自身が意識を高められるよう支援する。
		交通安全意識を高め、交通事故0件 事故発生件数　A:0件　B:1件　C:2件　D:3件　E:4件以上	A	交通事故0件（0） ・年間5回、教員、交通安全委員による街頭指導を実施した。 ・每学期自転車の車体検査及び施錠調査を実施した。 ・道路交通法改正に向けて、警察からの講話をいただいた。	・交通安全啓発活動更に充実させ、交通事故0件を目指し、生徒が事故の被害者、加害者にならないように努める。 ・車体検査や施錠率調査を継続することで、安全に対する意識を高める。
		ヘルメット着用率100％ 着用率　A:100％　B:95％以上　C:90％以上　D:85％以上　E:85％未満	C	・校外での自転車乗用中のヘルメット着用率は高いとは言えない。	・自身の身を守るための意識付けを徹底させ、正しいヘルメット着用の仕方についてを指導をしていく。
	学校生活の充実	生徒会行事満足度100％ 満足度　A:100％　B:95％以上　C:90％以上　D:85％以上　E:85％以下	A	・満足度調査 体育祭　95.7% (92.3%) 文化祭　98.6% (98.6%)	・生徒や地域の実態に即した学校行事の内容を検討し、効果的な指導の継続を図る。
		部活動加入率95％以上 加入率　A:95％以上　B:90％以上　C:85％以上　D:80％以上　E:80％未満	A	部活動加入率 運動部　　　　　63.2%（60.7%） 文化・生産奉仕部 37.6%（30.3%） 全体　　　　　　98.0%（90.9%）*()：昨年度	・生徒、各部の実態に応じて活動方法について検討する。（中学校との合同練習、合同チームへの参加） ・メンタルトレーニング等生徒の意識改革に積極的に取り組む。
		四国、全国大会出場を目指す。 出場数　A:4 枠以上　B:3 枠以上　C:2 枠以上　D:1 枠以上　E:出場なし	A	・全国大会出場8人（6人） ・四国大会出場22人（13人）	・生徒、教員の意見も参考に、本校の現状に応じた部の精選を行い、各部の強化、充実を図る。 ・教職員の共通理解・共通実践を図るとともに、生徒が活動しやすい状況を構築し、能力を発揮できる部活動への入部率を高め、活性化を図る。

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進 路 指 導	進学指導の充実	進学決定率100％を目指す。 A:100％ B:95％ C:90％ D:80％ E:80%未満	A	・進学決定率100%(3/6現在) 国公立大学 3名合格 私立大学 14名合格 私立短期大学 6名合格 専門学校 12名合格 合格 35名 未定者 0名	・キャリアパスポート「北辰キャリア」を積極的に活用し、個に応じた指導を行う。 ・大学見学や学校説明会や夢ナビ等を活用して、進学先の情報を収集するとともに、ＨＰやＳＮＳ等も活用し進路探究をさせる。 ・「ホームルーム活動」、「総合的な探究の時間」及び「学習合宿」等を活用して、進路意識の高揚を図る。
	就職指導の充実	就職内定率100％を目指す。 A:100％ B:95％ C:90％ D:80％ E:80%未満	A	・就職内定率100％ (3/6現在) 県内就職 7名 県外就職 19名 公務員 2名 内定 28名 ・一次試験での不合格者 2名	・各学年に応じた望ましい勤労観と職業観を育み、自らの進路選択に必要な能力や態度を身に付けさせる。 ・鬼北町役場と連携して、地元企業合同説明会を1・2学年対象に実施する。 ・就職課外授業(3年生)の内容を充実させ、就職活動の基礎知識を身に付けさせる。
業 務 改 善	業務の効率化・簡略化	業務の効率化・簡略化を推進し、生徒と触れ合う時間の充実を図るとともに、教職員の働きやすさやゆとりを創出する。 教員の意識調査 A:90％以上 B:80％以上 C:70％以上 D:60％以上 E:60%未満	C	・職員朝礼を毎日実施から週2回（月・水）に削減しゆとりを創出、職員室電話にかかる外線電話を教頭席の電話に変更し職員の電話対応負担を軽減、復命書の記入内容の簡略化による負担軽減等を実施することで業務改善を図った。しかし、依然として時間外勤務時間が十分削減できていない実態がある。	・ICTの積極的活用、職員間のコミュニケーションの向上、適正な人員配置等に努め、職員の多忙感の解消を図るための方策を引き続き検討し進めていく。
	職場環境の整備	管理職による定期的な面談の実施や、健康管理医による健康相談を定期的に実施し、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。 教員の意識調査 A:90％以上 B:80％以上 C:70％以上 D:60％以上 E:60%未満	B	・目標チャレンジシートの記入時期（計画、前期評価、後期評価）に合わせて、管理職との面談を希望により実施。 また、人事異動希望に伴う校長面談を実施した。さらに健康診断結果やストレスチェック結果、各月の勤務状況報告に基づいて管理職や養護教諭との面談も随時実施した。	・職員の心身の健康状態については、定期開催の衛生委員会で引き続き情報共有を行いながら、きめ細かい対応を心掛ける。また、管理職等に相談しやすい風通しのよい職場環境づくりに努める。

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
そ の 他	人権・同和教育の充実	差別を無くす行動力を育てる学習内容をさらに充実させるとともに、保護者・地域との連携を強化できるよう、教職員が共通の意識をもって取り組む。 教員の意識調査　A:90％以上　B:80％以上　C:70％以上　D:60％以上　E:60％未満	B	・各学期に行う人権・同和教育ホームルーム活動の前には事前学習会を学年ごとに実施し、学習内容の意識統一に努めた。 ・年9回「人権だより」を発行し、人権意識の高揚を図るため、内容にも工夫した。 ・人権・同和教育全体計画は必要に応じて見直しを検討していく。	・人権・同和教育ホームルーム活動実施前に行う事前学習会の内容を常に見直し、内容のさらなる充実を図る。 ・「人権だより」の内容は、分かりやすく、人権意識の高揚につながるよう工夫する。 ・人権・同和教育全体計画は、他校の取組も参考にし、本校の状況も踏まえ見直しを行う。
	教育相談の充実	生徒一人一人の発達に即して、自己理解、人間関係の構築、日常生活への適応、及び、自己有用感と他者を尊重する心・姿勢の育成を促す。 生徒意識調査　充実度　A:90％以上　B:80％以上　C:70％以上　D:60％以上　E:60％未満	B	【悩みに関するアンケート】において、「学校生活が楽しい」と肯定的回答をした生徒は97％に上る。一方、「クラスで心地よく過ごせていない」と感じている生徒が8％いる。また、一見充実しているようでも、それぞれが不安や悩みを抱えていることが分かる。SC、SSWとの連携によって、生徒理解・支援が進んだ点も大きい。	生徒の状況を把握し適切な支援を行うため、チームとしての連携体制を整えることが必要である。生徒にとって相談しやすい環境を整えることはもちろん、相談したことが改善・解決につながっていくような継続的な支援を行い、学校が心地よい居場所となるようにする必要がある。
	安全・危機管理の充実	防災避難訓練等を通して、緊急時に的確な判断・行動できる生徒の育成を目指す。 訓練等実施回数　A:4回以上　B：3回　C:2回　D：1回　E：未実施	C	・1学期に火災発生に対する防災対避訓練を行い、生徒の安全意識の高揚を図った。急な火災で予定されていた消防署による指導ができなかった。 ・2学期にシェイクアウトえひめを予告なしで実施した。その後、消防署員による火災や地震発生時の対応についての講話をしていただき、防災意識が向上した。	消火器訓練など、実際に災害が起こった時の対応を身に付けさせる。また避難訓練時の火災発生場所を変更するなどして、最善で迅速な判断・行動力を養う。
	地域と連携した学習の推進	小学校との連携学習や開放講座を35回以上実施。学校・行政・地域との連携の強化。 連携学習　A:35回以上　B:30回以上　C:25回以上　D:20回以上　E:20回未満	A	・小学校との連携学習25回実施（26回計画） ・中学校との連携（1日体験入学） ・地域のイベント参加9回（教育寮・公営塾との協力） ・地域みらい留学見学対応2回 ・対外（JA鬼北支所）発表1回	参加生徒は休日・時間外実習枠でも積極的に参加した。本校生産物の販売機会として有効であり、今後も同形態で実施予定である。 現在の実施回数・形態が最大限の取組みであるため、現在の形を継続する予定である。
	保護者や地域との情報交換の推進	PTA総会の出席率及び委任状回収率95％以上を目指す。 出席・回収率　A:95％以上　B:90％以上　C:80％以上　D:70％以上　E:70％未満	B	P T A 総会の出席率及び委任状回収率は、93.9%で昨年度より若干ではあるが、上昇した。	ホームページやS N S等を利用し、保護者に出席を呼びかけ、出席を促す。
		保護者懇談会の保護者出席率100％を目指す。 出席率　A:100％　B:95％以上　C:90％以上　D:85％以上　E:85％未満	A	1学期及び2学期に保護者懇談会を実施した。出席率（電話・オンライン含む）100%であった。	懇談の設定日数を増やすとともに、保護者が参加しやすい日程や時程を整える。

＊ 評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。